



有形文化財（建造物）

かすがじんじゃほんでん

1. 春日神社本殿

■指定年月日 昭和34年3月4日（1959）

■所有者 春日神社

■所在地 飯田町17-50

かすが
春日神社は弘長元年（1261）の鎮座と伝えるが沿革などについては明らかではない。神社に伝来する棟札むなふだに次の3枚がある。

正保3年（1646）「奉修造三間一面精舎壹宇」

元文2年（1737）「奉葺替春日大明神社頭」

寛政9年（1797）「奉修覆社頭一宇」

現在の本殿は面の大きな角柱を使用するなど古式な要素と、後補されたとみられるかえるまた墓股など江戸時代後期の要素とが混在している点からして、正保3年に造営され、元文2年に屋根の葺き替えを行ない、寛政9年に改修を加えたと考えられる。

本殿は、三間社流造の正面中央にごはい向拝を付け、木階ひさしを設けている。庇の床を高く張って前室とする。

側面は、現在は開放であるが、柱や組物に残された痕跡から判断して、庇の側面は板壁もしくは建具で閉ざされていた可能性が高い。身舎は切目長押もやきりめなげしと内法長押うちのりなげしを廻し、こりょう虹梁で庇と繋ぐ。組物はみな出三斗みつで、背面中央間の2本の柱上のみ舟肘木ふなひじきである。なかぞなえ中備は庇正面および向拝に墓股を配する。

ともあれ本殿は、母屋・庇部分によく江戸初期の様相を留めており、国指定重文の白山神社本殿などと同様な前室付流造の例として貴重な遺構といえよう。